

## コース12 きんぼくさんじゅうそう 金北山縦走

リーダー CL E/S SLK/H  
 実施日 平成30年5月22日(火)  
 天候 晴れ  
 グレード B  
 参加者 16人(男性 4 女性12)

### コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
秋葉区役所前		4:30	ジャンボタクシー、タクシーに分乗
佐渡汽船両津	8:30	8:40	ジャンボタクシー2台に分乗
ドンデン山荘	9:10	9:20	お天気良く多くの登山者が居ました
ツンブリ平	11:48	12:35	両津湾や金北山を見ながら昼ご飯
アヤメ池	15:05		この先ロープにつかまり残雪の急登を登る
金北山	16:40	16:55	集合写真の後景色を見ながら休憩
白雲台	17:08	17:13	13,6kmのロングコースを歩き通し皆頑張りました
佐渡汽船両津	17:55	19:30	船内で食事を注文少しお酒も飲み皆で楽しく談話
佐渡汽船新潟	22:00	22:10	迎いのジャンボタクシーに乗り込む
秋葉区役所前	22:45		

### 山行等概要(幹事のコメント)

- 幹事として一番悩むのが実施日の天候、今回も予定日の19日☂マークが付き早めに週間予報お天気マークの23日に予定したのですが又しても23日に☂マークに成り中止しようと思いましたが諦めきれず22日はお天気良いのが確定な様なので22日に実施する事にしました。その為参加できない人が8名出てしまいゴメンナサイ。佐渡の山は風が強く天候の悪い時は皆を案内する自信が有りません。
- 花の方はアオネバ十字路から直ぐ先はシラネアオイも咲いて居ましたが何かくたびれた様な花でした。でも山頂に近ずくと匂のシラネアオイを見る事が出来ました。
- マトネで休憩、此処より今日の目的の山、金北山も見えますが未だ遠いです。でも此処からは尾根歩きで景色を見ながらの歩きですので疲れは感じません。ツンブリ平で昼休憩、風も無く両津湾や金北山を見ながら食事する事が出来ました。此のコース1番の良い所真砂の芝生や真砂も峰を越え



中間点のイモリ平に着く頃疲れが出て来て天狗の休み場が遠く感じた。

- アヤメ池を過ぎ此のコース 1 番の難所残雪の急登や藪の急登もクリア山頂直下の雪渓を登り無事金北山へ 着く事が出来ました。集合写真の後少し休憩タクシー会社に電話迎えのタクシーを依頼する。
- 防衛道路を 1 時間余り歩き予定時間の範囲以内でタクシーの待つ白雲台に着きました 13,6 キロ、休憩を入れての行程時間約 8 時間疲れましたが落後者も無く事故や怪我也無く歩き通す事が出来ました。皆さん有難うございました。
- 帰りが遅くなるので夕食は船内で注文して少しお酒も飲み楽しく語らいました。

## 金北山縦走に参加して

(834) Y/S

このコースはお友達と頻繁に佐渡に通っていた時、行きそびれてしまい、是非佐渡の最高峰花形コースをいつか歩いてみたいと思っていました。標高差 260m、累計標高差上り 955m、下り 1000m、山頂直下は急騰、と知って思い悩んでいましたが、2度の日程変更のおかげで、参加できることになりました。憧れのコース頑張ろうと思ったのですが、ばててしまい皆様にご迷惑とご心配おかけした事始めにお詫びいたします。

### 出会えた花々

アオネバ十字路あたりからシラネアオイがちらほら、ニリン草が群落をなしてびっしり咲き乱れて今年初めての出会いに感激。次第にシラネアオイの大きな株があちらこちらに表れ始める。花の色もスミレ色のものや紫色のものまで小さく可憐だ。スミレもあちこちに。ヒトリシズカも一本。イワカガミ、エンレイソウも。咲き遅れたのか小さな雪割草もひっそりと。しばらく歩くとエチゴキジムシロがびっしり咲きあたり一面黄色だ。キバナノアマナは終わったようだ。また進むとカタクリが両脇に一面。キクザキイチゲもちらほら。サンカヨウの大きな葉に上品な白い花二三輪、。黄色のシ



べが清楚さをきわたらせている。私の好きな花だ。ツンブリ平で昼食後天狗の休み場をめざす。イワカガミが道の両側に咲いている。あふれんばかりにびっしりと花をつけて莖が誇らしげに花の重みにたえている珍しいものもあった。

見上げればタムシバの純白。桜のピンク。金北山頂からのダラダラの長い下りの道路の両脇にジュダヤクシ、 誰にも採られないのかフキノトウが白い花が綿毛となっている。その他まだまだ咲いていたと思う。数百枚もカメラに収めた人もいたそうだ。

やはり佐渡！。春が一変にきて、  
いろんな花が一度に見られる。感激・感激です。

## 眺望

ドンデンに行くまでのタクシーの中からこれから縦走する金北山までの山々が見渡せる素晴らしい眺望。あのいくつものピークのコブを歩けるか？

マトネからは加茂湖・両津湾・真野湾が地図そっくりそのままの眺望だ。

金北山頂までの急騰はロープのおかげで心配したほどでなく登れて良かった。

そこからは加茂湖、両津湾、白い波の後を残しジェットホイルが両津湾を離れる様子が絵のようだ。国仲平野、真野湾その向こうに小佐渡の山の峰々。

峰の向こうの山の中にはリーダーの生家があるそうだ。この金北山へは9歳の幼少時に父親と一緒に登ったそうだ。佐渡ではこの山はリーダーが小学の頃は未だ女人禁制の信仰の山で男子7歳を過ぎると初参りで金北山に登り石楠花の葉を持ち帰り小皿に載せて小皿と一緒に近所に配り初参りの報告をし子供の成長を祝ったそうだ。

帰りの船内での楽しいお酒など感激一杯の山旅でした。リーダー、サブリーダー、班長さんご一緒した皆さんありがとうございました。

